

第100回トーマス・マン研究会

- 2014年1月25日（土）13 時半より
- 福岡大学文系センター棟学部共通室
- 発表 日高雅彦（九州大学院生）：トーマス・マンとロシア文学
- 発表 中島邦雄（水産大学校）：アルフレート・ボイムラーとカール・ケレーニイの神話学 —トーマス・マンによるバッハオーフェン受容とフマニスムス
- 記念講演 池田紘一（九州大学名誉教授）：『魔の山』の魅力——第1章～第4章における錬金術的物語術

第99回トーマス・マン研究会

- 2013年10月5日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 福元圭太（九州大学）：フェヒナーにおける光明観と暗黒観の相克
- 書評 今井 敦（龍谷大学）：トーマス・マン『トーニオ・クレーガー 他一篇』の新訳（平野卿子訳、河出文庫）について

第98回トーマス・マン研究会

- 2013年7月6日（土）14 時半からより
- 西南学院大学（学術研究所1階の第2会議室）
- 発表 中島邦雄（水産大学校）：石牟礼道子『椿の海の記』とロマン主義的イロニー
- 発表 坂本彩希絵（長崎外大）：『パレストリーナ』と芸術家性 —トーマス・マン『非政治的人間の考察』における「美德について」の章より—

第97回トーマス・マン研究会

- 2013年1月12日（土）14時半より
- 九州大学伊都キャンパス 比文・言文棟2階 205会議室
- 発表 今井敦（龍谷大学）：F・G・ユンガー『技術の完成』における"Die totale Mobilmachung"の概念
- 合評 福元圭太（九州大学）：林進著『意志の美学 三島由紀夫とドイツ文学』（鳥影社、2012年）

第96回トーマス・マン研究会

- 2012年9月15日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 合評 中島邦雄（水産大学校）：小黒康正著『水の女 トポスへの船路』（九州大学出版会、2012年）

- 発表 別府陽子（大阪大学大学院）：トーマス・ブッテンブロークの「ショーペンハウアー体験」と「永遠に結ばれた精神の三連星」 — 『悲劇の誕生』とフリードリヒ・ニーチェのパロディとして—

第95回トーマス・マン研究会

- 2012年6月23日（土）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表1 福元圭太（九州大学）：『精神物理学原論』の射程 —グスタフ・テオドール・フェヒナーとその系譜（4）—
- 発表2 日高雅彦（九州大学院生）：トーマス・マンの『演劇試論』について

第94回トーマス・マン研究会

- 2012年3月3日（土）14時半より
- 九州大学伊都キャンパス 比文・言文棟2階 205会議室
- 発表1 小黒康正（九州大学）：ディレッタントの変容 —トーマス・マン『道化者』をめぐって—
- 発表2 坂本彩希絵（九州大学助教）：Gewalt gegen Gewalt. Die ästhetisch heterogene Struktur von Thomas Manns Erzählungen „Das Eisenbahnunglück“ und „Der Tod in Venedig“.

第93回トーマス・マン研究会

- 2011年12月10日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 福元圭太（九州大学）：『ツェント・アヴェスター』における賦霊論と彼岸 —グスタフ・テオドール・フェヒナーとその系譜（3）—
- 発表2 小黒康正（九州大学）：トーマス・マン『ファウストゥス博士』における水底行 —「音楽神話」をめぐって—

第92回トーマス・マン研究会

- 2011年9月19日（土）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表 日高雅彦（九州大学院生）：エッセイストとしての「トーマス・マン」 —「ボンの文学史協会への報告」を中心に—
- 新刊紹介 今井敦（龍谷大学）：浜田泰弘著『トーマス・マン政治思想研究（1914-1955）「非政治的人間の考察」以降のデモクラシー論の展開』（国際書院、2010年）

第91回トーマス・マン研究会

- 2011年6月25日（土）14時半より
- 九州大学伊都キャンパス 比文・言文棟 2階 言文会議室
- 発表1 及川晃希（日本大学院生）：トーマス・マンと読者
- 発表2 別府陽子（大阪大学院生）：『ブッデンブローク家の人々』 —『悲劇の誕生』のパロディーとして—

第90回トーマス・マン研究会

- 2010年12月25日（土）14時半より
- 九州工業大学（戸畑キャンパス）総合教育棟3階人間科学資料室
- 発表1 小黒康正（九州大学）：Neo-Joachismus auf der „geistigen Insel“ in München —Kandinsky, Mereschkowski und Thomas Mann—
- 発表2 中島邦雄（水産大学校）：トーマス・マンとアルフレート・ボイムラー —バッハオーフェン受容における屈折した軌跡—（2）

第89回トーマス・マン研究会

- 2010年9月19日（日）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 小黒康正（九州大学）：歌声を失った「水の女」たち —アンデルセン、リルケ、カフカ、ブレヒト—
- 発表2 木戸繭子（東京大学院生）：トーマス・マン短編作品における欲望の三角関係

第88回トーマス・マン研究会

- 2010年6月26日（土）14時半より
- 九州大学伊都キャンパス 比文・言文棟2階言文会議室
- 発表1 中島邦雄（水産大学）：トーマス・マンとアルフレート・ボイムラー—バッハオーフェン受容における屈折した軌跡
- 発表2 福元圭太（九州大学）：植物の魂の生活について —グスタフ・テオドール・フェヒナーの系譜（2）—

第87回トーマス・マン研究会

- 2010年3月30日（火）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表1 小黒康正（九州大学）：リルケ、カフカ、ブレヒト 沈黙する「水の女」たち
- 発表2 中島邦雄（水産大学）：トーマス・マンとアルフレート・ボイムラー —バッハオーフェン受容における屈折した軌跡—（1）

- 合評 福元圭太 (九州大学) : 岡光一浩著『トーマス・マンの青春 全初期短編を読む』 (鳥影社、2009年)

第86回トーマス・マン研究会

- 2009年10月10日(土)14時半より
- 九州工業大学戸畑キャンパス 附属図書館4階グループ研究室
- 発表1 小黒康正 (九州大学) : 「水の女」の黙示録 —インゲボルク・バッハマン『ウンディーネ—行く』をめぐって—
- 発表2 今井敦 (九州工業大学) : 「私」と「私たち」の葛藤 —南チロルの文学の流れに見る「故郷」からの離反—

第85回トーマス・マン研究会

- 2009年5月23日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 今井敦 (九州工業大学) : 「私」と「私たち」の葛藤 —ヨーゼフ・ツォーデラーの『イタリア女』とザビーネ・グルーバーの『帰らぬ子ら』—
- 発表2 小黒康正 (九州大学) : アンティポデーの闇 —ブレンターノ/ゲレスの『時計職人ボックスの不思議な物語』—

第84回トーマス・マン研究会

- 2009年1月24日(土)14時半より
- 九州大学六本松キャンパス 6階会議室(「さようなら六本松」の会)
- 発表1 中島邦雄 (水産大学) : 「鯨・船・牡牛」
- 発表2 福元圭太 (九州大学) : グスターフ・テオドル・フェヒナーを巡って

第83回トーマス・マン研究会

- 2008年10月26日(土)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表1 中島邦雄 (水産大学) : 『ルカンガ・ムカラ』とエコロジー
- 発表2 坂本彩希絵 (九州大学院生) : 『非政治的人間の考察』について

第82回トーマス・マン研究会

- 2008年5月24日(土)14時半より
- 九州工業大学戸畑キャンパス 人間科学資料室
- 発表1 小黒康正 (九州大学) : 「水の精」のメタモルフォーゼ —アイヒェンドルフ文学をめぐって—

- 発表 2 今井敦 (九州工業大学) : ヨーゼフ・ツォーデラーの小説『手を洗うときの幸福』(1976) 論

第 81 回トーマス・マン研究会

- 2008 年 2 月 23 日 (土) 14 時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 合評 福元圭太 (九州大学) : 坂本彩希絵著「市民的言語と〈ざわめき〉」(『九州ドイツ文学 21 号』、2007 年)
- 合評 小黒康正 (九州大学) : 関楠生著『ドイツ文学者の蹉跌—ナチスの波にさらわれた教養人』(中央公論社、2007 年)

第 80 回トーマス・マン研究会

- 2007 年 11 月 3 日 (土) 14 時 30 分より
- 九州大学六本松 第 3 会議室
- 発表 1 小黒康正 (九州大学) ; 水の女をめぐる「翻訳」論 フケー『ウンディエネ』とクライスト『水の男とセイレン』
- 発表 2 今井敦 (九州工業大学) : 南チロルにおけるドイツ語文学の現況

第 79 回トーマス・マン研究会

- 2007 年 6 月 30 日 (土) 14 時半より
- 西南学院大学 学術研究所第 1 会議室
- 発表 1 エーファ・オトマー (九州大学) : “Streitgespräch mit dem Tod” - Mittelalterliche Todesmotive in Thomas Manns Drama “Fiorenza”
- 発表 2 中島邦雄 (水産大学) : H・D・ソローの『森の生活 (ウォールデン)』とエコロジー

第 78 回トーマス・マン研究会

- 2007 年 4 月 7 日 (土) 14 時半より
- 九州工業大学工学部 人間科学講座会議室
- 発表 1 中島邦雄 (水産大学) : アルレート・ボイムラーとトーマス・マン (試論)
- 発表 2 今井敦 (九州工業大学) : 南チロルの爆破テロと Sepp Mall の小説『傷跡の縁』 (“Wundränder”, 2004)

第 77 回トーマス・マン研究会

- 2007 年 1 月 27 日 (土) 14 時半より
- 九州大学文学部独文学研究室

- 発表 小黒康正 (九州大学) : メールヒェンのパロディ —「ハインリヒ・ハイネのローレライ」—
- 合評 中島邦雄 (水産大学) : ハープレヒト『トーマス・マン物語』第一巻 (承前)

第76回トーマス・マン研究会

- 2006年12月2日(土)14時半より
- 九州大学六本松キャンパス 6階会議室
- 発表 浅井彩希絵 (九州大学院生) : 異音のざわめき —Th.マン『ブッデンブローク家の人びと』における言語と認識—
- 合評 中島邦雄 (水産大学) : ハープレヒト『トーマス・マン物語』第一巻 (翻訳) の紹介

第75回トーマス・マン研究会

- 2006年9月30日(土)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第3会議室
- 発表1 桐原隆弘 (非常勤講師) : 「苦」と「救済」の生命社会学 (マックス・シェーラー「苦の意味について」1922より)
- 発表2 福元圭太 (九州大学) : ヴァイマルのトーマス・マン

第74回トーマス・マン研究会

- 2006年7月22日(土)14時半より
- 九州工業大学工学部 人間科学講座会議室
- 合評 福元圭太 (九州大学) : 奥田敏広著『トーマス・マンとクラウス・マン、《倒錯》の文学とナチズム』(ナカニシヤ出版、2006年)

第73回トーマス・マン研究会

- 2006年5月27日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 今井敦 (九州工業大学) : 南チロルの現代文学事情 —Joseph Zoderer と Sabine Gruber を中心に—
- 発表2 福元圭太 (九州大学) : ゲーテとヘッケル —エルンスト・ヘッケルの思想(3)—

第72回トーマス・マン研究会

- 2006年2月11日(土)14時半～
- 九州大学六本松キャンパス 第3会議室

- 発表1 小黒康正（九州大学）：「水の精の物語」の身体論的研究（承前）
- 合評会 福元圭太著『「青年の国」ドイツとトーマス・マン』について

第71回トーマス・マン研究会

- 2005年12月3日（土）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表1 小黒康正（九州大学）：「水の精の物語」の身体論的研究 —序論を中心に—
- 発表2 中島邦雄（水産大学）：ボイムラーとトーマス・マン
- 報告 小黒康正（九州大学）：秋季学会の「『魔の山』シンポジウム」について

第70回トーマス・マン研究会

- 2005年10月9日（土）
- 同志社大学 日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム：トーマス・マン『魔の山』の「内」と「外」—新たな解釈の試み—（司会 福元圭太）
- 発表1 友田和秀（奈良県立医科大学）：亡霊ヨーアヒムをめぐって—「内側」の視点から—
- 発表2 小黒康正（九州大学）：忘却と想起—『魔の山』におけるディオスクロイ—
- 発表3 柏木貴久子（関西大学）：「祝福せられたる食物摂取を！」—民族誌としての『魔の山』における飲食儀礼の実践—
- 発表4 田村和彦（関西学院大学）：魔法の山の東へ

第69回トーマス・マン研究会

- 2005年10月8日（金）
- 関西学院大学
- 小黒・友田・柏木・田村・福元 「日本独文学会秋季研究発表会「『魔の山』シンポジウム」について

第68回トーマス・マン研究会

- 2005年7月16日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 自著紹介 柏木貴久子『Festmahl und frugales Mahl. Nahrungsrituale als Dispositive des Erzählens im Werk Thomas Manns.』
- 自著紹介 友田和秀『トーマス・マンと一九二〇年代 『魔の山』とその周辺』

第67回トーマス・マン研究会

- 2005年5月21日（土）13時半より

- 九州大学文学部独文学研究室
- 『魔の山』シンポジウムの趣旨説明（小黒康正）
- 自著紹介 小黒康正：『黙示録を夢見るとき』
- 自著紹介 田村和彦：『魔法の山に登る』
- 発表 Eva Ottmer (Uni. Kyushu) : Das Motiv des mittelalterlichen Totentanz in Thomas Manns *Der Zauberberg*

第 66 回 トーマス・マン研究会

- 2005 年 2 月 5 日（土）14 時半より
- 西南学院大学 学術研究所第 2 会議室
- 発表 1 今井敦（九州工業大学）：ハインリヒ・マン『ウンラート教授』の成立と受容
- 発表 2 吉田幸司（九州大学院生）：“Der Kleiderschrank”の要約、解説（仮）

第 65 回 トーマス・マン研究会

- 2004 年 12 月 4 日（土）14 時半より
- 九州工業大学工学部 人間科学講座会議室
- 発表 中島邦雄（水産大学）：『トニオ・グレーゲル』における無意識 — 身体論的探究の語りとしての第 6 章以降 —
- 座談会：トーマス・マン事典の編纂について

第 64 回 トーマス・マン研究会

- 2004 年 10 月 9 日（土）14 時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 小黒康正（九州大学）：“Thomas Mann in Japan”
- 座談会：トーマス・マン研究会の今後の活動方針について

第 63 回 トーマス・マン研究会

- 2004 年 7 月 10 日（土）14 時半より
- 九州大学六本松キャンパス 本館 2 階第 3 会議室
- 発表 吉田幸司（九州大学院生）：ヨゼフ小説の神話と身体 — 『天上の諸階における序曲』をめぐって —
- 合評 小黒康正（九州大学）：友田和秀著『トーマス・マンと一九二〇年代—『魔の山』とその周辺』（人文書院、2004 年）

第 62 回 トーマス・マン研究会

- 2004 年 4 月 3 日（土）14 時半より

- 西南学院大学学術研究所 1階第1会議室
- 発表1 堺雅志（長崎外国語大学）：カール・クラウスの言語論
- 発表2 福元圭太（九州大学）：ドイツ青年運動と文学 文化批判・学童悲劇・ヴァンダーフォーゲル

第61回トーマス・マン研究会

- 2003年3月15日（土）14時半より
- 西南学院大学学術研究所 1階小会議室
- 発表1 野田大輔（九州大学院生）：トーマス・マン初期作品群における「関心」の様相
- 発表2 小黒康正（九州大学）：近代の超克の文学的諸相—三島由紀夫、辻邦生、村上春樹におけるトーマス・マン—

第60回トーマス・マン研究会

- 2003年1月25日（土）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表1 中島邦雄（水産大学校）：ハイデッガーと『トニオ・クレーガー』
- 発表2 堺雅志（九州大学）：19世紀の言語批判

第59回トーマス・マン研究会

- 2002年10月19日（土）15時より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 福元圭太（九州大学）：青年運動とホモソーシャルティ —同性愛と政治のディスクルース—

第58回トーマス・マン研究会

- 2002年8月10日（土）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表 小黒康正（九州大学）：Die Globalisierung eines Topos. Von den Wasserfrauen in Europa und Asien. [アジア地区ゲルマニスト会議（北京）での発表原稿]
- 懇談：ドイツ文学研究叢書の寄贈の件

第57回トーマス・マン研究会

- 2002年6月8日（土）14時半より
- 九州大学言語文化部（六本松） 本館2階第2会議室
- 発表1 野田大輔（九州大学院生）：『ヴェニスに死す』における「ヤッシュウ」の意味

- 発表 2 井野泰寛（九州大学院生）：ヘルダーリンの悲歌『パンとぶどう酒』における夜の意味について

第 56 回トーマス・マン研究会

- 2002 年 4 月 6 日（土）14 時より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 1 吉田幸司（九州大学院生）：『魔の山』におけるフェティシズム
- 発表 2 稲元萌（福岡大学名誉教授）：ハレ国際シュナーベル会議に出席して付「最終講義」VTR 上映（2001.12.20）

第 55 回トーマス・マン研究会

- 2002 年 1 月 26 日（土）14 時半より
- 西南学院大学 学術研究所第 2 会議室
- 発表 1 野田大輔（九州大学院生）：トーマス・マン初期作品群における『関心』の様相 —『道化者』を中心に—
- 発表 2 福元圭太（九州大学）：「身体」は文学研究のメルクマルになりうるか —構築主義を中心に—
- 合評：小黒康正『黙示録を夢みる時 —トーマス・マンとアレゴリー』、福元圭太氏の書評（『九州ドイツ文学』13 号）を出発点に

第 54 回トーマス・マン研究会

- 2001 年 11 月 3 日（土）14 時半より
- 九州大学言語文化部（六本松）本館 2 階第 2 会議室
- 発表 1 武田順子（西南学院大学学生）：『トニオ・クレージャー』の登場人物 Lisaweta Iwanowna、その登場意義と効果について
- 発表 2 小黒康正（九州大学）：インゲボルク・バッハマンの『三十歳』 —トポスへの歩み—

第 53 回トーマス・マン研究会

- 2001 年 8 月 29 日（水）14 時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 1 岩永七織子（九州大学院生）：ヘッベルの『ゲノフェーフア』における二人の男の罪 —ゴーロを中心に—
- 発表 2 赤尾美秀（西南学院大学）：トーマス・マンの無意識的心理記述に観られる合理主義

第52回トーマス・マン研究会

- 2001年6月23日(土)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表1 野田大輔(九州大学院生):『ヴェニスに死す』における愛とエクスタシス
- 発表2 河村薫(九州大学院生):『魔の山』における夢の場面 —トリックスターのヘルメス像としての主人公について—

第51回トーマス・マン研究会

- 2001年4月6日(金)15時より
- 九州大学言語文化部(六本松) 本館2階第2会議室
- 発表1 中島邦雄(水産大学校):『主人と犬』における動物描写の特徴
- 合評:小黒康正『黙示録を夢みるとき —トーマス・マンとアレゴリー』

第50回トーマス・マン研究会

- 2000年12月17日(日)15時より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 目正勝(熊本大学非常勤):『トビアス・ミンダーニッケル』の中のイメージ的表現について
- 発表2 福元圭太(九州大学):一元論の射程 —エルンスト・ヘッケルの思想—

第49回トーマス・マン研究会

- 2000年7月22日(土)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所大会議室
- 発表1 小黒康正(九州大学):『ノルウェーの森』(村上春樹)と『魔の山』
- 発表2 中島邦雄(水産大学校):『主人と犬』と環境文学(仮題)

第48回トーマス・マン研究会

- 2000年5月20日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 吉田幸司(九州大学院生):『トニオ・クレーガー』における「見る」と「歩く」
- 発表2 赤尾美秀(西南学院大学):『ヨセフ物語』における物語論的疑似神学 —自我の超越と神の発見—

第47回トーマス・マン研究会

- 2000年2月19日(土)14時半より
- 九州大学言語文化部(六本松) 本館2階第2会議室

- 発表 小黒康正 (九州大学) : Die Dialektik der apokalyptischen Kultur. – Ist das Ende vom Ende möglich? –

第46回トーマス・マン研究会

- 1999年12月11日(土)15時より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表 稲元萌 (福岡大学) : ゲーテの詩「日記 (Das Tagebuch)」をめぐって

第45回トーマス・マン研究会

- 1999年8月17日(火)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 中島邦雄 (水産大学校) : 『ヴェニスに死す』とディオニュソス祭儀
- 発表2 小黒康正 (九州大学) : “Zusammenspiel von individuellem und kollektivem Gedächtnis bei Thomas Mann”

第44回トーマス・マン研究会

- 1999年6月12日(土)14時半より
- 九州大学言語文化部 (六本松) 本館2階第2会議室
- 発表1 岩見幸之助 (福岡大学院生) : メルヒェン、最高にまとまりがない思考の集まり
- 発表2 赤尾美秀 (西南学院大学) : フェーリクス・クルルの「心理学」(2) / (承前)

第43回トーマス・マン研究会

- 1999年4月2日(金)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表1 岩永七織子 (九州大学院生) : ヘッベルにおける「事物化」された女性 —ユーディットの場合—
- 発表2 赤尾美秀 (西南学院大学) : フェーリクス・クルルの「心理学」

第42回トーマス・マン研究会

- 1999年2月6日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 小黒康正 (九州大学) : 黙示録文化における『人類の薄明』
- 発表2 中島邦雄 (水産大学校) : 『ヴェニスに死す』と『魔の山』の海

第41回トーマス・マン研究会

- 1998年12月5日(土)10時～
- 九州大学六本松キャンパス 第2会議室
- 発表1 稲元萌(福岡大学):トーマス・マン考 —『ヴァイマルのロッテ』を中心に
- 発表2 目正勝(熊本大学非常勤):C.G.ユングのある学位請求論文へのコメント
(研究会後、同キャンパスで14時より行われた種村季弘氏による文化講演会「カタクリスムの文学」に参加。講演会後に、種村氏との座談会が行われた。)

第40回トーマス・マン研究会

- 1998年9月26日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 小黒康正(九州大学):“Apokalypse-Erinnerung-Allegorie”
- 紹介 福元圭太(九州大学):ヴォルフガング・エメリッヒの『東ドイツ文学小史』から「転換期の東ドイツ文学」

第39回トーマス・マン研究会

- 1998年7月11日(土)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表1 岩見幸之助(福岡大学院生):鉦夫の夢
- 発表2 堺雅志(日本学術振興会特別研究員):カール・クラウスとトーマス・マン
- 発表3 赤尾美秀(西南学院大学):トーマス・マン研究会ホームページ

第38回トーマス・マン研究会

- 1998年5月30日(土)15時より
- 九州大学言語文化部(六本松) 本館2階第1会議室A
- 発表1 岩永七織子(九州大学院生):フリードリヒ・ヘッベルの『ヘロデ王とマリムネ王妃』 —悲劇の女性における心理—
- 発表2 赤尾美秀(西南学院大学):帰朝報告

第37回トーマス・マン研究会

- 1998年4月4日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 中島邦雄(水産大学校):桑原武夫の文学論と『魔の山』(仮題)
- 発表2 福元圭太(九州大学):エロスの軌跡(5) —ハンス・ブリューナーを読むトーマス・マン(1)—

第36回トーマス・マン研究会

- 1998年1月31日（土）14時半より
- 九州大学言語文化部（六本松）本館2階第2会議室
- 発表1 小黒康正（九州大学）：ヨゼフ小説成立におけるメレシコフスキー受容について
- 発表2 中島邦雄（水産大学校）：桑原武夫の文学論とトーマス・マン文学

第35回トーマス・マン研究会

- 1997年10月4日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 岩永七織子（九州大学院生）：『ファウストゥス博士』のデモーニッシュな女性たち
- 発表2 福元圭太（九州大学）：鏡と自伝 — 『詐欺師フェリークス・クルルの告白』におけるセクシュアリティの問題—

第34回トーマス・マン研究会

- 1996年7月19日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 論文紹介（“Thomas Mann Jahrbuch”の最新号より）
 - Manfred Dierks: Typologisches Denken bei Thomas Mann – mit einem Blick auf C. G. Jung. In: Thomas Mann Jahrbuch. Hrsg. v. Eckhard Heflich und Thomas Sprecher. Band 9. Frankfurt a. M. 1996, S. 127-154. (担当：目正勝)
 - Joëlle Stoupy: Thomas Mann und Paul Bourget. Ebd., S.91-106. (担当：野口達人)
 - Michael Wieler: Der französische Einfluß. Zu den frühesten Werken Thomas Manns am Beispiel des Dilettantismus. Ebd., S. 173-188. (担当：野口達人)
- 発表 中島邦雄（水産大学校）：G. ハウプトマンの海洋小説『アトランティス』 — 「古典的現代小説」の可能性を秘めた娯楽小説—

第33回トーマス・マン研究会

- 1997年5月24日（土）14時半より
- 九州大学言語文化部（六本松）本館2階第2会議室
- 発表1 岩永七織子（九州大学院生）：エーリヒ・ノイマンの『グレート・マザー』について
- 発表2 福元圭太（九州大学）：“Die Spur des Eros (4)”
- 紹介 小黒康正（九州大学）：Micahel Maar: *Geister und Kunst. Neuigkeiten aus dem Zauberberg*. München, 1995.

第32回トーマス・マン研究会

- 1997年3月29日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 合評1：堺雅志「カール・クラウス覚書 ―〈ことばの姿〉について―」（『九州ドイツ文学』第10号）
- 合評2：目正勝「トーマス・マンの『選ばれし人』について ―肉体化した語り手に関して―」（『西日本ドイツ文学』第8号）
- 発表 池田紘一（九州大学）：『魔の山』の錬金術的構造

第31回トーマス・マン研究会

- 1996年12月22日（日）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表1 福元圭太（九州大学）：“Zur Theorie der Homosexualität bei Hans Blüher, Magnus Hirschfeld und Sigmund Freud”（論文「エロスの軌跡3」と関連して）
- 発表2 小黒康正（九州大学院生）：遅ればせながらの帰朝報告（ダヴォスでの「魔の山」シンポジウム報告など）

第30回トーマス・マン研究会

- 1996年10月12日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 小黒康正（九州大学院生）：「黙示録を夢見る」とき ―カンディンスキーとメレジコフスキー、そしてトーマス・マン―
- 発表2 福元圭太（九州大学）：遅ればせながら帰朝報告
- 発表3 中島邦雄（水産大学校）：ハウプトマンの『アトランティス』

第29回トーマス・マン研究会

- 1995年3月12日（日）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表 赤尾美秀（西南学院大学）：マンとケレーニイ ―アポロンの超越―
- 懇談：阪神・九州トーマス・マン研究会ジョイントセミナーの成功に向けて（予行練習・予備発表・スケジュール調整など）

第28回トーマス・マン研究会

- 1995年2月5日（日）14時より
- 九州大学言語文化部（六本松） 本館2階第5会議室
- 懇談：

1. 関西の「マンと 20 世紀小説研究会」とのジョイント研究会に備えて
2. 3 月のジョイント研究会の日程・人数確認と内容のつめ

第 27 回トーマス・マン研究会

- 1994 年 12 月 18 日（日）14 時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 懇談：
 1. トーマス・マンのアクチュアリティー（現代的意義）について（関西の「マンと 20 世紀小説研究会」とのジョイント研究会に備えて）
 2. 今後の活動方針について、その他

第 26 回トーマス・マン研究会

- 1994 年 10 月 30 日（日）14 時半より
- 西南学院大学 学術研究所第 1 会議室
- 発表 岩永七織子（九州大学院生）：「ファウストゥス博士」の契約 — 魔女に彩られた運命 —
- 懇談：
 1. トーマス・マン研究会の今後の運営について
 2. 関西の「マンと 20 世紀小説研究会」との共同作業について
 3. その他（九大電算センターのトーマス・マン・ファイル有効利用、マン長編小説読み直し、ケレーニイ翻訳作業と本研究会の関連、“Der Erotische Deutsche”など）

第 25 回トーマス・マン研究会

- 1994 年 8 月 26 日（金）14 時半より
- 九州大学言語文化部（六本松）本館 2 階第 5 会議室
- 発表 1 中島邦雄（水産大学校）：トーマス・マンと海
- 発表 2 福元圭太（九州大学）：エロスの軌跡 — トーマス・マン、ホモ・エロティック、政治 —

第 24 回トーマス・マン研究会

- 1994 年 6 月 25 日（日）14 時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 星谷暁子（九州大学院生）：トーマス・マンの『ブッデンブローク家の人々』について — アントーニエ・ブッデンブロークをめぐる —
- 報告 福元圭太（九州大学）：Karl Werner Böhm: *Zwischen Selbstzucht und Verlangen; Thomas Mann und das Stigma Homosexualität; Untersuchungen zu Frühwerk und Jugend*

第23回トーマス・マン研究会

- 1994年4月17日(日)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 赤尾美秀(西南学院大学):ケレーニイの『アポロン論』について
- 懇談:
 1. マン=ケレーニイ往復書簡 翻訳について
 2. 東京学会における阪神 TM 研との会合について
 3. 個人研究発表と文献輪読について
 4. 研究会の形態・方法と目標について 他

第22回トーマス・マン研究会

- 1993年6月26日(土)14時半より
- 九州大学言語文化部(六本松) 本館5階福元研究室
- 懇談:翻訳書の選定(マン=ケレーニイ往復書簡、Wißkirchenの著作)、仕事の進めかた、今後の会の方針など

第21回トーマス・マン研究会

- 1993年5月1日(土)14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 報告と討論: Ignace Feuerlicht: “Thomas Mann und die Grenzen des Ich”
VIII. Das Zaubermeer [S.66-76] (担当: 目正勝)
XIII. Narzißmus und Ichverlust [S.136-139] (担当: 福元圭太)
XIV. Die Liebe [S.140-147] (担当: 野口達人)
XV. Der homoerotische »Gefühlsbezirk« [S.148-160] (担当: 福元圭太)
- 懇談: 今後の活動方針(翻訳出版の件など)について

第20回トーマス・マン研究会

- 1993年2月21日(日)14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 発表 野口達人(九州大学院生): Th.マンと Th.シュトルム — 『トーニオ・クレーゲル』と『大学時代』を中心に—
- 報告と討論: Ignace Feuerlicht: “Thomas Mann und die Grenzen des Ich”
S. 40. Z.16~ (V. Das Überindividuelle – Seelen und Geister) (担当: 目正勝)
VII. Mystik mit Vorbehalt [S.58-] (担当: 堺雅志)
VIII. Das Zaubermeer [S.66-] (担当: 目正勝)

- 懇談：トーマス・マン研究会の今後のあり方について

第19回トーマス・マン研究会

- 1992年12月23日（水）14時より
- 九州大学言語文化部（六本松） 本館2階第3会議室
- 報告と討論：Ignace Feuerlicht: “Thomas Mann und die Grenzen des Ich”
V. Das Überindividuelle – Seelen und Geister [S. 40. Z.16-] (担当：目正勝)
VI. Religiosität ohne Religion (担当：堺雅志)
VII. Mystik mit Vorbehalt (担当：堺雅志)
- 来年度に向けての方針

第18回トーマス・マン研究会

- 1992年10月31日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 岩永七織子（九州大学院生）：『ブッデンブローク家の人々』 —アントーニエとゲルダ—
- 発表2 堺雅志（九州大学院生）：トーマス・マンと言語危機 —初期短編を中心に—
- 報告と討論：Ignace Feuerlicht: “Thomas Mann und die Grenzen des Ich”
V. Das Überindividuelle – Seelen und Geister (担当：目正勝)
VI. Religiosität ohne Religion (担当：堺雅志)
VII. Mystik mit Vorbehalt (担当：堺雅志)

第17回トーマス・マン研究会

- 1992年8月8日（土）14時より
- 九州大学言語文化部（六本松） 本館2階第3会議室
- 発表 中島邦雄（水産大学校）：音楽的詩人 トーマス・マン（その2）
- 報告と討論：Ignace Feuerlicht: “Thomas Mann und die Grenzen des Ich”
III (担当：堺雅志)
IV (担当：中島邦雄)
V (担当：目正勝)

第16回トーマス・マン研究会

- 1992年6月7日（日）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表 小黒康正（九州大学院生）：『魔の山』と『ファウストゥス博士』 —イエス、その二度の死—

- 報告と討論：Ignace Feuerlicht: “Thomas Mann und die Grenzen des Ich”

第15回トーマス・マン研究会

- 1992年3月30日（月）14時より
- 九州大学言語文化部（六本松）本館2階第3会議室
- 発表 中島邦雄（水産大学校）：音楽的詩人 トーマス・マン —トーマス・マンとブルーノ・ヴァルター—
- 懇談：トーマス・マン文献の選択について

第14回トーマス・マン研究会

- 1992年2月1日（土）14時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2会議室
- 発表1 野口達人（九州大学院生）：『ブデンプロック家の人々』と『ルネ・モーブラン』—2つの長編における自然主義と印象主義—
- 発表2 福元圭太（九州大学）：“Die Betrogene”について —前回の補足—
- 懇談：トーマス・マン文献のデータベース利用について

第13回トーマス・マン研究会

- 1991年12月14日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 報告（修士論文中間発表）堺雅志（九州大学院生）：『魔の山』におけるペーペルコロン像について（仮題）
- 説明 赤尾秀美（西南学院大学）：トーマス・マン文献のデータベース入力操作について

第12回トーマス・マン研究会

- 1991年11月2日（土）14時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 報告（中間発表）福元圭太（九州大学）：『欺かれた女』論（仮題）

第11回トーマス・マン研究会

- 1991年8月22日（木）13時半より
- 場所：不明
- 『論集トーマス・マン』についての報告と検討
 - 家、家族、男、女 —『ブデンプロック家の人々』について—（担当：野口達人）
 - 『トーニオ・クレーガー』 —内容と技法をめぐって—（担当：伊丹）

- 『ヴェニスに死す』 —ある芸術家の死をめぐって— (担当：野口達人)
- 『魔の山』第七章 (担当：小黒康正)
- 今日の神話論議に照らしみた『ヨゼフ小説』 (担当：赤尾美秀)
- 受容理論の視点から見た『選ばれし人』 (担当：中島邦雄)
- トーマス・マンにおける晴れやかな哄笑の時 —詐欺師フェーリクス・クルル像の可能性— (担当：赤尾美秀)
- ナルシシズムの幻影 —『詐欺師フェーリクス・クルルの告白』論— (担当：堺雅志)
- アンビヴァレンツの芸術家トーマス・マン —一九一八年と一九三三年を中心に— (担当：目正勝)
- 祝福と星 —トーマス・マンの「ゲーテのまねび」についての補説— (担当：小黒康正)
- 一つのトーマス・マン像 —主として一九一八年—一九二一年の日記による— (担当：福元圭太)
- トーマス・マンの『日記 一九三三年—一九三四年』 —時局、ヴァーグナー講演、創作のための覚書の問題をめぐって— (担当：中島邦雄)
- トーマス・マンと同性愛 (担当：福元圭太)
- 物語の精神か、反省的主観か？ —『魔の山』と『特性のない男』における小説の方法— (担当：目正勝)
- 意味の幻影 —トーマス・マンと言葉— (担当：堺雅志)
- 総評 (担当：池田紘一)

第10回トーマス・マン研究会

- 1991年6月1日(土) 14時半より
- 九州大学言語文化部(六本松) 本館2階第3会議室
- 紹介と討論：Hans Wißkirchen: *Zeitgeschichte im Roman -- Zu Thomas Manns *Zauberberg* und *Doktor Faustus**. [Thomas-Mann-Studien Bd.6], Bern: Franke, 1986.
Kapital IV. d) Kierkegaard und Benjamin: Das Religiöse [S.184-] (担当：福元圭太)

第9回トーマス・マン研究会

- 1991年4月29日(日) 13時半より
- 西南学院大学 学術研究所第2小会議室
- 紹介と討論：Hans Wißkirchen: *Zeitgeschichte im Roman -- Zu Thomas Manns *Zauberberg* und *Doktor Faustus**. [Thomas-Mann-Studien Bd.6], Bern: Franke, 1986.
Kapital IV. 1. b) [S.152-159] (担当：赤尾美秀)
2. [S.160-199] (担当：福元圭太)

第8回トーマス・マン研究会

- 1991年2月3日(日)13時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 紹介と討論：Hans Wißkirchen: *Zeitgeschichte im Roman -- Zu Thomas Manns Zauberberg und Doktor Faustus*. [Thomas-Mann-Studien Bd.6], Bern: Franke, 1986.
Kapital III [S. 105-140] (担当：野口達人)
Kapital IV. 1. [S.141-159] (担当：赤尾美秀)

第7回トーマス・マン研究会

- 1990年12月2日(日)13時より
- 九州大学言語文化部(六本松) 本館2階第3会議室
- 紹介と討論：Hans Wißkirchen: *Zeitgeschichte im Roman -- Zu Thomas Manns Zauberberg und Doktor Faustus*. [Thomas-Mann-Studien Bd.6], Bern: Franke, 1986.
Kapital III [S. 105-140] (担当：野口達人)
- 発表1 赤尾美秀(西南学院大学)：トーマス・マン(の物語作品)と聖書テキスト—“Joseph und seine Brüder”が示している物語論・テキスト論上の諸問題—(仮)
- 発表2 福元圭太(九州大学)：ユートピアの模索 —『ファウストゥス博士』試論—

第6回トーマス・マン研究会

- 1990年9月15日(土)13時半より
- 西南学院大学 学術研究所会議室
- 紹介と討論：Hans Wißkirchen: *Zeitgeschichte im Roman -- Zu Thomas Manns Zauberberg und Doktor Faustus*. [Thomas-Mann-Studien Bd.6], Bern: Franke, 1986.
Kapital II 3. Der Weg zur Republik [S. 84-104] (担当：目正勝)
- 発表 堺雅志(九州大学院生)：『魔の山』について —登場人物ペーペルコレンの物語における意味と位置付け—

第5回トーマス・マン研究会

- 1990年6月17日(日)13時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 紹介と討論：Hans Wißkirchen: *Zeitgeschichte im Roman -- Zu Thomas Manns Zauberberg und Doktor Faustus*. [Thomas-Mann-Studien Bd.6], Bern: Franke, 1986.
Einleitung
Kapital I 1. Grundlage der Realitätswahrnehmung
2. Thomas Manns Sicht der Geschichte im Ersten Weltkrieg

[S. 7-39] (担当: 池田紘一)

Kapital II 1. Orientierungslosigkeit bei Kriegsende
2. Die deutsche Revolution im *Zauberberg*

[S. 39-84] (担当: 中島邦雄)

第4回トーマス・マン研究会

- 1990年4月22日(日)13時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 野口達人(九州大学院生):『ブッテンブローグ家の人々』と『ルネ・モープラン』
- 発表2 小黒康正(九州大学院生):トーマス・マンとアレゴリー

第3回トーマス・マン研究会

- 1990年2月25日(日)13時半より
- 九州大学文学部独文学研究室
- 発表1 目正勝(熊本大学非常勤):『選ばれし人』論
- 発表2 福元圭太(九州大学):研究紹介とコメント: Stationen der Thomas-Mann-Forschung: Aufsätze seit 1970 / Hermann Kurzke (Hrsg.) -- Würzburg: Königshausen und Neumann, 1985 の中から 1. Hermann Kurzke: Tendenzen der Forschung seit 1976 [S. 7-14]. 2. Lothar Pikulik: Die Politisierung des Ästheteten im Ersten Weltkrieg [S. 61-72].

第2回トーマス・マン研究会

- 1989年12月17日(日)13時半より
- 西南学院大学 学術研究所第1会議室
- 合評1 片山良展:トーマス・マン『魔の山』の研究 —〈時の小説〉の成立と構造— (担当: 赤尾美秀)
- 合評2 山口知三: 転身の構造 —〈時代の小説〉としての『魔の山』の成立史と構造とについての一考察— (担当: 中島邦雄)

第1回トーマス・マン研究会

- 1989年10月29日(日)14時より
- 九州大学六本松キャンパス 第三会議室
- 自己紹介
- 会の方針について